

大学生との 未来としまミーティング報告書



豊 島 区

■ 目的

豊島区の新たな基本構想・基本計画の策定に向けた区民参画の一環として、未来を担う若い世代の思いや考えを計画づくりに反映させる。

■ 開催日時・場所

日時：令和6年8月27日（火）14：00～

場所：豊島区役所本庁舎 8階 レクチャールーム

■ テーマ

豊島区が「住みたい、住み続けたいまち」となるために
（参加者に事前アンケートを行い、その回答をもとに意見交換を行いました。）

■ 参加者

「豊島区と区内大学との連携・協働に関する包括協定」を締結する8大学の学生15人

- ◇ 学習院大学
 - ◇ 川村学園女子大学
 - ◇ 女子栄養大学
 - ◇ 大正大学
 - ◇ 帝京平成大学
 - ◇ 東京音楽大学
 - ◇ 東京国際大学
 - ◇ 立教大学
- （五十音順）

■ 主な意見（要約）

1. 豊島区の強み（良いところ）

利便性が高い	➢ 池袋を中心に鉄道やバスなど交通機関が充実していて、移動手段が複数ある。 ➢ 来街者にとってもアクセスがよい。 ➢ 生活するうえで必要な衣・食・住が揃っている。サードプレイスも多いので、息抜きやリフレッシュできる場所も多いのも魅力だと考える。
まちごとに特色がある	➢ 池袋駅を中心に商業施設が多く、国内外から多くの人が訪れ、賑わいがある。 ➢ 目白周辺のような、自然が多く落ち着いた場所がある。 ➢ 閑静な住宅街や、鬼子母神をはじめとする歴史的な建造物、さらには商店街や都電など、昔ながらの街並みが残っている。 ➢ 池袋から少し離れただけで、静かで、物価も比較的安いので、住みやすい。
文化が充実	➢ 劇場・映画館・美術館などの文化施設が豊富である。 ➢ アニメ・コスプレ（特に女性向けコンテンツ）の発信地である。 ➢ 池袋を中心に、食・エンタメ・芸術など、様々なジャンルに触れることができ、商業施設が充実している。
子育て施策が充実	➢ 連続で待機児童ゼロを達成しており、子育て施策に力を入れている。 ➢ 子育て世代が利用できる公園が整備されている。
地域との連携	➢ 「としまMONOづくりメッセ」「池袋リビンググループ」など、地域とつながる機会が多い。 ➢ 地域の多様性を活かしたイベントが開催されている。
その他	➢ 8つの大学があり、学生が多い。 ➢ 国際色豊かで、SDGs、ダイバーシティプログラム、持続可能な街づくりを行っている。 ➢ 多様性を受け入れる柔軟性がある。



2. 豊島区の弱み（改善が必要なところ）

「池袋」のイメージが強い	➢ 池袋のイメージが強すぎて、他の地域の魅力が十分に伝わっていない。 ➢ 池袋以外の地域には、交通の利便性が良くないところがある。 ➢ 池袋に来街者が集中し、他の地域への誘客につながっていない。 ➢ 池袋は便利で魅力的な街だが、暮らす場所として転入するにはハードルが高い。
治安対策	➢ 池袋駅周辺で、声掛けや客引きなどの行為を見かけるが、実際に自分も受けたことがある。 ➢ 「池袋は怖い」というイメージが固定化していて、街がきれいになった現在の状況が伝わっていない。（学生にも、親世代にも）
緑が少ない	➢ 緑が少ないイメージがある。 ➢ 公園の整備が進んできているが、自然が好きな人にはまだ十分ではないのでは。
情報発信	➢ 今回参加して初めて区の実情を知った。区の情報が自分には届いていない。 ➢ これからアプローチすべき若者に対して区からの情報が届いていない。PRがうまくいっていないのでは。
その他	➢ バリアフリー化があまり浸透していないと感じる。 ➢ ファミリー世帯が減少していると感じる。 ➢ 地価が高いので、住む、住み続けるには経済的な負担が大きい。 ➢ 外国人が増加しており、文化の違い等もあることから、生活ルールの周知をしっかりと行うべき。例えば路上喫煙やポイ捨てなど。



3. 住みたい・住み続けたいまちになるために

情報発信	➤ 若い世代にはTikTok やInstagramによる情報発信が有効だと思う。 ➤ 行政サービスの内容を発信するだけでなく、例えば、若い夫婦が区の施設やサービスを実際どのように利用しているのかのようなロールモデルの形で発信すると、自分事としてイメージしやすいと思う。
大学との連携等	➤ 大学が8つもあることをもっとアピールしてもいいのではないかな。 ➤ 区内の大学生が豊島区の魅力をもっと知っていれば、オープンキャンパスで高校生やその親御さんから区について質問された時などに魅力を伝えることができる。 ➤ せっかく豊島区に来てくれた大学生に、豊島区の魅力をもっと伝えていくと良いのではないかな。例えば、区内に住んでいる方の家にホームステイして、実感してもらうなど。 ➤ 池袋周辺には、静かで暮らしやすい街があることを大学生にアピールすることで、将来暮らす場所の選択肢になるのではないかな。 ➤ 大学生や地域住民が交流できる機会が増えるといいと思う。
まちづくり	➤ （大学周辺では）今開発が進んでいるが、巣鴨のような風情のあるまちは残して、地域ごとに特色のあるまちづくりをしてほしい。歴史を活かしたまちづくりに魅力を感じる。 ➤ 地域交流が盛んな街や、環境が整備され、緑豊かな街に住みたい、住み続けたいと思う。 ➤ 治安がよく、女性や子どもにやさしいまちづくりを進めてほしい。 ➤ 災害に強い街（情報発信の充実、学生・外国人・子育て世帯などが孤立しない）
空き家活用	➤ 空き家の活用として、若い世代に何日間かお試して住んでもらってはどうか。 ➤ 空き家をシェアハウスなどにして、区内に通学・通勤する若者に安く提供し、その代わりに地域のイベント等に参加してSNS等で発信してもらうのはどうか。実際に豊島区に住むことで愛着がわき、住み続けたいという思いが生まれると思う。 ➤ 学生が利用できるように、大学と連携した空き家活用の検討を進めてはどうか。
その他	➤ 行政サービスの簡略化や、デジタル化を推進してほしい。 ➤ 交通ルールの啓発や、子育て支援などの行政課題に真摯に取り組んでいく姿勢が、住みたい・住み続けたい街につながると考える。 ➤ ひとり暮らし高齢者が問題となっているので、区内に住む高齢者世帯に子や孫などの家族が同居のため転入した場合に、区から支援があるとよいのではないかな。 ➤ 区内大学の学生が区内に住むと学費が安くなるなど、特典があると良いのでは。



■ ミーティングを終えて高際区長より

- 区内の学生の方に、豊島区の取組を知ってもらう事が重要だと感じました。各大学と連携し、豊島区をもっと知ってもらうための講義などを今後検討したいと思います。
- 若い世代に届く情報発信について、学生の皆さんにも一緒に考えていきたいと思っています。



■ 参加者からの感想

- 区長や区職員と話すことで様々な学びがあった。
- まちづくりや地域活性化に興味を持つ学生はたくさんいると思うので、学生が豊島区の魅力をアピールできる機会があるとよい。
- 自分では考えつかない、様々な意見を聞くことができて楽しかった。
- このミーティングのような取組はぜひ続けていただきたいと思っています。



令和6年10月 編集・発行 政策経営部 企画課
問い合わせ 03-3981-2511